

飼料費高騰への対応（生産性向上対策・自給飼料の増産対策）

佐賀県農業技術防除センター

畜産経営の安定を図る上で、生産費に大きな割合を占める購入飼料費の高騰は大きな問題です。飼料の変更を行うことは家畜生産に影響を及ぼすため、安価な飼料へ変更することで飼料費の高騰に対応できるものではありません。経営の安定のためには、生産性の向上を図ることでの対応が重要だと考えられます。次のとおり生産性向上対策を整理したので業務の参考としてください。

また、飼料穀物の需給のひっ迫基調が継続する可能性があるため、これまで以上に自給飼料増産の取組推進をお願いします。

【生産性向上対策】

I 各畜種共通

- 1 畜舎環境を整え、適切な飼養管理・衛生管理の徹底による疾病予防や事故低減等を図る。
 - (1) 畜舎・器具機材の定期的な清掃と消毒を実施する。また、破損等がないかこまめに確認するなど、設備の管理を徹底する。
 - (2) 暑熱対策(屋根断熱材、石灰塗布、ペンキ塗布、散水、送風機の適切な利用等)を徹底する。
 - (3) スマート畜産技術を活用し、生産性向上・省力化を図るとともに事故による損失を防止する。
 - (4) 飼料の適切な保管に努め、腐敗やカビの発生等による損耗を防止する。
 - (5) 獣医師の指導のもと適切なワクチン、駆虫プログラムを実施し、疾病の発生を予防する。
- 2 家畜の発育状況に合った飼料給与を行う。
 - (1) 給与内容に無駄がないか飼料設計を確認する。
 - (2) 必要に応じ飼料分析や代謝プロファイルテスト等を実施する。
- 3 残飼や盗食などの状況を確認し、給与飼料が無駄にならないようチェックする。
 - (1) 残飼がでないよう飼料の形状や1回の給餌量、給与回数を工夫する。
 - (2) 嗜好性の悪い飼料を有効活用するため、飼料の混合化により選び食いを防止する。
- 4 堆肥販売による収益性向上を図る。
 - (1) 耕種農家の使用目的に配慮して、良質堆肥の生産・流通の拡大を図る。

II 酪農

- 1 泌乳成績、牛群検定や代謝プロファイルテストに基づく飼料給与診断を活用するとともに、牛群管理システムなどのICTを活用することで繁殖管理を徹底し、効率的に産乳性・繁殖成績の向上に取り組む。
- 2 適正な搾乳手順の遵守等、乳房炎対策を徹底し、乳質・乳量の向上を図る。
- 3 分娩前後の飼養管理に注意し、繁殖成績を向上させて、生涯乳量の向上を図る。特に乾乳後期には、急激なボディーコンディションの変化がないよう、飼養管理に注意する。
- 4 ゲノミック評価、受精卵移植、性選別精液などの活用により効率的に優良後継牛を確保して、1頭当たりの搾乳量を向上させる。

III 肉用牛繁殖

- 1 管理・観察を徹底し、適切な栄養管理により、繁殖雌牛の繁殖機能の早期回復を図るとともに、発情発見システムの活用による適期授精や、超音波装置による早期妊娠診断を活用し、牛群全体の妊娠率を向上させる。
- 2 子牛の育成管理を徹底し、生産性の高い素牛の育成に努めるとともに事故率の低減を図る。

IV 肉用牛肥育

- 1 月齢、増体等発育に応じた適切な飼料設計により増体の向上と飼料効率の改善を図るとともに、個体ごとの増体量を目安に出荷適期を判断し、肥育期間の短縮に努める。
- 2 過肥にならずに月齢に応じた発育を示す生産性に優れた肥育素牛を導入し、飼い直しによるロスを防止する。また、一貫生産体系に取り組むことにより素畜費の削減を図る。
- 3 超音波肉質診断や血液検査などを活用し、肥育ステージに合わせた飼料給与、適正なビタミンコントロールを行うなど合理的な肥育に努め、疾病・事故等の発生を防止する。

V 養豚

- 1 母豚の適正な給与管理や発情発見に努め、繁殖成績の向上を図るとともに、確実に妊娠鑑定をすることで、長期空胎を防止する。種雄豚の精液性状の確認と使用頻度の適正化を行うとともに人工授精技術の導入により、種雄豚の飼養負担を軽減する。
- 2 肉豚の体重を把握し、出荷時期の適正化及び出荷体重の均一化等を図り、上物率を向上させる。

VI 養鶏

- 1 鶏舎の温湿度・換気等の環境を整え、ストレスの軽減等により飼料要求率の改善を図る。
- 2 自家育雛・育成による素畜費削減、誘導換羽の実施により飼養期間を延長する(採卵鶏)

【自給飼料の増産対策】

- 1 自作地、遊休農地等を積極的に活用し、自給飼料が確保できるよう多角的な取り組みを行う。
 - (1)優良草種や優良品種(奨励・認定品種、稲WC Sの極短穂茎葉型品種)を利用する。
 - (2)イアコーン、子実用トウモロコシ等の自給濃厚飼料の生産利用を検討する。
 - (2)適期播種や適期収穫を実施(気象条件に合わせて臨機応変に対応)する。
 - (3)土壌診断や堆肥成分分析に基づく適正な施肥管理を行う。
 - (4)雑草や病害虫の適切な防除対策を実施する。
 - (5)水はけの良好なほ場の選定と排水対策を行う。
 - (6)二毛作や二期作による年間を通じての単収向上を図る。
- 2 飼料作物関係機械の適切なメンテナンスによる長寿命化や共同利用、コントラクター等飼料生産外部組織の活用によりコストを削減する
- 3 適切な収穫作業、保管により高品質な自給飼料を生産する。
 - (1)丁寧な作業により収穫ロスを削減するとともに、土砂・雑草の混入がないよう注意する。
 - (2)サイレージ調製では、水分65%以下になるよう予乾や乾物の添加を行い、嫌気性を向上させるため、収穫後速やかに密封する。また、乳酸菌等の添加剤により発酵品質の向上を図る。
 - (3)ラップサイレージを保管するときには、機械の操作ミス等による損傷、ビニールの劣化に注意するとともに、保管場所は排水性に注意し、さらに鳥獣による被害防止策を講じる。
- 4 未利用資源を飼料として有効活用を図り飼料自給率の向上を図る。エコフィードの活用、利用拡大には飼料の安全性の確保や飼料成分の把握が重要となるので、有効性を確認し取り組みを開始する。